



見直し摘果マン

りんご生産情報第8号
(7月26日～8月6日)

令和7年7月25日発表
青森県「農林水産力」強化本部

着果量多い。仕上げ摘果を急ごう！
日焼け防止対策を万全に！！
積極的にかん水を！！

I 概 要

7月21日現在の果実肥大は、干ばつで鈍化しており、一部で平年を下回っている。本年産りんごの着果量は各品種とも標準着果量をかなり上回っており、「成らせ過ぎ」の傾向である。仕上げ摘果を終えていない園地では、果実品質向上や充実した花芽の確保のため、すみやかに適正な着果量とする。仕上げ摘果が終了した後も、見落としや成らせ過ぎの部分がないか確認し、適正な着果量になるまで見直し摘果を徹底する。

降水量の少ない状況が続き、園地が乾燥している。苗木や若木は乾燥の影響を受け易いのでかん水する。

日焼け果の発生防止に向け、高温時の徒長枝整理、支柱入れ、枝つりなどは控える。

「7月末」の薬剤散布は、黒石、弘前、三戸で7月30～31日頃に実施する。降雨前の散布を徹底し、散布むらが生じないように基準散布量を守る。

ハダニ類は発生動向を見極めながら適正な防除を行う。

報道機関用提供資料	
担 当 課	農林水産部りんご果樹課
担 当 者	生産振興グループ GM 工藤 秀樹
電話番号	直通 017-734-9492 内線 5146
報 道 監	農林水産部 次長 栗林 豊 内線 4967

Ⅱ りんご生産情報

1 果実肥大、作業の進み、病害虫の動き

(1) 果実肥大

干ばつで果実肥大は鈍化しており、一部で平年を下回っている。

○果実肥大

(7月21日現在、横径cm、平年比%)

地 域	年	つがる	ジョナゴールド	ふ じ
黒 石 (りんご研究所)	本 年	6.3	－	5.4
	平 年	6.4	－	5.5
	前 年	7.0	－	6.0
	平年比	98	－	98
青森市浪岡北中野 (東青農林水産事務所)	本 年	6.5	－	5.2
	平 年	6.4	－	5.4
	前 年	7.0	－	6.5
	平年比	102	－	96
弘前市独狐 (中南農林水産事務所)	本 年	6.5	6.0	6.0
	平 年	6.5	6.1	5.4
	前 年	7.6	6.5	6.3
	平年比	100	99	111
板柳町五幾形 (西北農林水産事務所)	本 年	6.3	－	5.6
	平 年	6.4	－	5.4
	前 年	7.0	－	6.6
	平年比	98	－	104
三戸町梅内 (三八農林水産事務所)	本 年	7.0	－	5.6
	平 年	6.3	－	5.3
	前 年	7.5	－	6.3
	平年比	111	－	106

注) 各農林水産事務所のデータは農業普及振興室の生育観測ほ調査データ

(2) 着果状況

7月9、10日に県が行った着果状況調査の結果では、各品種とも標準着果率をかなり上回っている。

○着果状況

品 種	着果率			標準着果率 (県基準の適正着果程度)
	本年	平年	前年	
ふじ	35.0	33.7	32.9	25.0
ジョナゴールド	37.4	35.7	38.2	28.6
つがる	41.9	38.1	39.3	28.6
王林	43.0	38.5	39.7	25.0

注) 県内72地点で調査、着果率：100頂芽当たりの着果数割合(%)、平年値：平成27年～令和6年までの10か年の平均

(3) 作業等の進み (7月21日現在)

仕上げ摘果作業は全般に遅れている。仕上げ摘果が終了した園地では見直し摘果が行われている。

支柱入れが行われている。

(4) 病害虫の動き

(7月23日現在 りんご研究所)

腐らん病	粗皮感染継続中
斑点落葉病	感染継続中 殺菌剤無散布の県予察圃での新梢葉発病葉率 (スターキング) (7月18日: 本年6.7%、平年3.3%)
褐斑病	感染継続中
ハダニ類	卵～成虫が混在 幼虫～成虫が葉を加害中
リンゴコカクモンハマキ	平年の第1世代成虫の羽化初発日は7月28日
モモシンクイガ	成虫の羽化・産卵継続中
ナシヒメシンクイ	平年の第2世代成虫の羽化初発日は7月23日
キンモンホソガ	第2世代成虫羽化50%日 (本年7月17日、平年7月23日)
ナシマルカイガラムシ	幼虫～成虫が混在 まもなく第2世代の歩行幼虫が出現する

※調査園地にコンフューザーRが設置されており、対象害虫の誘引を確認できないことから、リンゴコカクモンハマキ、ナシヒメシンクイは平年値のみ示す。

2 作業の重点

(1) 摘果

本年産りんごの着果量は各品種とも標準着果量をかなり上回っており、「成らせ過ぎ」の傾向である。仕上げ摘果を終えていない園地では、果実品質向上や充実した花芽の確保のため、すみやかに適正な着果量とする。仕上げ摘果が終了した後も、見落としや成らせ過ぎの部分がないか確認し、適正な着果量になるまで見直し摘果を徹底する。

着果量が少ない樹や枝では、樹勢が強くないよう、発育や形の悪い果実、

比較的障害が少ない果実も着果させて、着果量を確保する。

品種別の標準的な着果程度

品 種	摘果の強さ (残す果実)
紅玉	3 頂芽に 1 果
つがる・ジョナゴールド	3.5 頂芽に 1 果
ふじ・王林・早生ふじ・トキ・シナノゴールド・きおう・金星・シナノスイート・未希ライフ・ぐんま名月・さんさ・星の金貨・千雪・夏緑・恋空・祝・花祝・紅はつみ・秋陽・はるか	4 頂芽に 1 果
北斗	4.5 頂芽に 1 果
陸奥・世界一	5 頂芽に 1 果

(2) 乾燥対策

降水量の少ない状況が続き、園地が乾燥している。苗木や若木は乾燥の影響を受け易いのでかん水する。園地の状況を把握し、干天日（降水量 5 mm 未満）が 2 週間程度続いたら、1 m²当たり 20ℓ 程度をかん水する。

また、草からの蒸散を防ぐため、草刈りをこまめに行い、樹冠下に敷き草する。

(3) 徒長枝整理、支柱入れ、枝つり

樹冠内部に日光を入れ、葉液の到達をよくするために、不要な徒長枝を切り取る。また、果実が大きくなるにつれて枝が下がり、重なり合ってくるので支柱入れや枝つりを行う。

なお、今後高温が続くと予想されている。主枝や果実の日焼けの発生を防ぐため、過度な徒長枝の剪去は控える。あわせて、高温時の支柱入れ、枝つりは控える。

(4) 被覆資材の樹上被覆による日焼け果の発生軽減

近年夏季の高温による日焼け果の発生頻度が増している。日焼け防止対策として、遮光資材の被覆が有効である。

晴天で真夏日が予想される前日までに被覆し、日焼け発生の可能性がなくなり次第取り外す。遮光資材は遮光率 10～20% 程度のものを使用し、着色管理等の邪魔にならないよう、支柱等を利用して樹上に設置する。なお、遮光率の高い資材は、年により収穫遅れや着色が損なわれるので使用しない。

(5) 恋空の収穫

熟度の進みは平年並である。

今年も気温が高いと予想されるため、着色を待ちすぎて収穫が遅れると、果肉

の軟化につながるので、果肉の硬さを確認し、適期に収穫する。

山選果に当たっては、変形果や日焼け果、病虫害被害果などを取り除き、出荷先の基準により選別・出荷する。

収穫した果実は、高温下に置くと果肉の軟化など品質の劣化が早くなるので、すみやかに冷蔵施設に搬入する。

(6) 「7月末」の薬剤散布

黒石、弘前、三戸で7月30～31日頃実施する。

散布むらが生じないよう基準散布量を守り、降雨前の散布を徹底する。

無袋栽培では毎回、シンクイムシ類防除剤を使用する。

なお、極早生種に散布する場合は、「収穫前日数」に注意して薬剤を選択する。

「7月末」

地域	散布時期	基準薬剤	散布量/10 a
黒石 弘前 三戸	7月30～31日頃	オキシラン水和剤 500倍 又は有機銅剤 (キノンドー顆粒水和剤 1,000倍 オキシンドー水和剤80 1,200倍) 又はオーソサイド水和剤 800倍 又はアリエッティC水和剤 800倍 又はダイパワー水和剤 1,000倍 又はベフラン液剤25 1,500倍	500ℓ

炭疽病の発生が例年多い園地や高温多湿条件が続いて多発が懸念される場合は、オキシラン水和剤、有機銅剤、オーソサイド水和剤のいずれかを選択する。

輪紋病のいぼ皮病斑が多発している園地では、オキシラン水和剤、有機銅剤、ダイパワー水和剤、ベフラン液剤25のいずれかを選択する。

褐斑病の発生が前年に多かった園地や多湿条件が続いて多発が懸念される場合は、オキシラン水和剤及びアリエッティC水和剤を使用しない。

アリエッティC水和剤及びベフラン液剤25は、殺虫剤又は殺ダニ剤と組み合わせる場合、最後に調合する。

(7) 褐斑病対策

被害葉は見つけ次第摘み取り、適切に処分する。

(8) 腐らん病対策

本年も発生が多い。枝腐らん・胴腐らんを放置すると伝染源となるので、すみやかに以下の処置を行う。

枝腐らんは、見つけ次第切り取り、適切に処分する。

胴腐らんは、見つけ次第治療する。治療済みの病斑も随時確認し、再発が認められた場合は再度処置を行う。

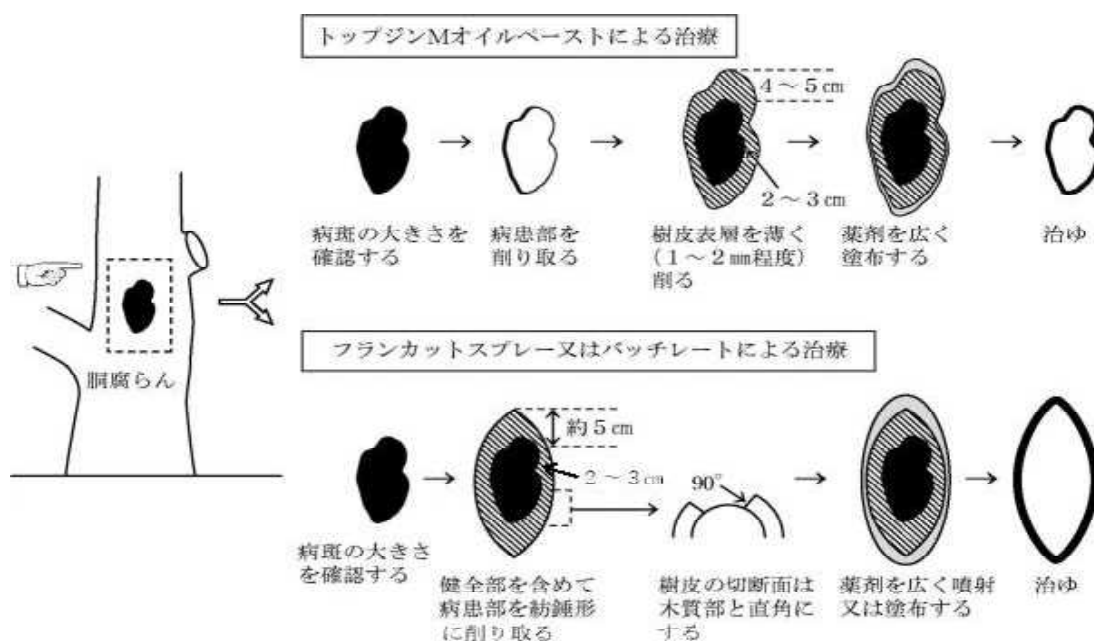
ア トップジンMオイルペースト、フランカッтスプレー又はバッチレートを使う場合は、下図のとおり薬剤ごとに適切な方法で処置を行う。なお、トップジンMオイルペーストを使用して再発が確認された場合は、直ちにフランカッтスプレー又はバッチレートによる治療か泥巻き法で処置する。

イ 泥巻きを行う場合は、水を加えて団子状にこねた泥を病斑部よりも5～6 cm 広めに、3～5 cmの厚さに貼り付ける。さらにその上をビニール又はポリエチレンフィルムなどで被覆し、内部の泥の乾燥を防ぐようにして約1年間そのままにしておく。病斑部を軽く削り取ってから泥巻きを行うと一層効果的である。

なお、火山灰土壌を使用する場合は、容積比で土が9に対してベントナイト（土壌改良資材の一種）1を加えてこねると粘着性が増し、泥巻き作業の効率が良くなる。泥を作るには、土とベントナイトをよく混ぜてから水を入れて練る。この際、ベントナイトは量が多すぎると樹皮が腐敗し、治ゆ効果も低下するので、加える量を誤らないようにする。

ウ 粗皮感染による胴腐らの発生が多い園地で、「7月半ば」にトップジンM水和剤1,500倍又はベンレート水和剤3,000倍を使用しなかった場合は、「7月末」に使用する。

エ 胴腐らの発病が著しい樹は、伝染源になるので積極的に伐採する。



削り取り法による胴腐ら治療の作業手順

なお、処置方法については、青森県産業技術センターのYoutube公式チャンネルに掲載している。
(<https://www.youtube.com/@aitcofficial/videos>)



二次元コード1
：トップジンM
オイルペースト



二次元コード2
：バッチレート



二次元コード3
：泥巻き法

(9) 黒星病対策

被害葉、被害果は見つけ次第摘み取り、適切に処分する。

(10) 斑点落葉病対策

急増が懸念される場合は、ポリオキシシンAL水和剤1,000倍も使用する。

ポリオキシシンAL水和剤は薬剤耐性発達の懸念があるので、連続散布を避ける。

(11) 炭疽病対策

伝染源となるニセアカシアやくるみ類などは、りんご園の周りから取り除く。

また、発病果を放置すると二次伝染により被害が増加するので、必ず摘み取り、土中に埋める。

(12) 輪紋病対策

枝幹上のいぼ皮病斑が伝染源となるので、削り取ってトップジンMペーストを塗る。削り取りができない細い枝は、見つけ次第切り取り、適切に処分する。

いぼ皮病斑が多発している園地では、「7月末」にオキシラン水和剤500倍、有機銅剤（キノンドー顆粒水和剤1,000倍又はオキシンドー水和剤80 1,200倍）、ダイパワー水和剤、ベフラン液剤25のいずれかを選択する。

(13) ハダニ類対策

発生動向を見極めながら適正な防除を行う。散布の目安は1葉当たり2個体以上あるいは寄生葉率50%以上である。殺ダニ剤は薬剤抵抗性が出やすいので、年2回以内使用のものでも年1回の使用とする。

ダニサラバフロアブル、スターマイトフロアブル、ダニコングフロアブルは同系統の薬剤なので、合わせて年1回以内の使用とする。

ダニオーテフロアブルは銅剤（有機銅剤及びオキシラン水和剤）と混用しない。銅剤を散布した後は使用しない。また、散布後に銅剤を使用する場合は10日以上散布間隔をあける。

オマイト水和剤は、7月下旬までの使用を避ける。

リンゴハダニとナミハダニに対する殺ダニ剤の適用表

薬剤名	年間使用回数	リンゴハダニ	ナミハダニ
サンマイト水和剤	1回	○	×
バロックフロアブル	2回以内	○	×
カネマイトフロアブル	1回	×	○
エコマイト顆粒水和剤	1回	○	×
オマイト水和剤	1回	○	○
コロマイト乳剤	1回	○	○
マイトコーネフロアブル	1回	×	○
ダニサラバフロアブル	2回以内	○	×
スターマイトフロアブル	1回	○	×
ダニコングフロアブル	1回	○	×
ダニオーテフロアブル	1回	○	○

○：効果が高い、×：効果が低い

(14) シンクイムシ類対策

被害果は見つけ次第摘み取り、適切に処分する。

もも、なし、日本すもも、プルーン、マルメロなども発生源になるので、適切な管理を行う。

(15) クワコナカイガラムシ対策

発生が多い園地では、7月下旬（末頃）と8月上旬（前回散布の10日後頃）に有機リン剤の防除剤による胴木洗いを行う。

(16) 果樹カメムシ類対策

チャバネアオカメムシの発生が多く見られている。果実が吸汁されると、果実肥大に伴い吸汁部位がくぼみ、奇形果となる。園内をこまめに見回り、成虫、卵塊、幼虫が確認されたら、すみやかに捕殺、除去するとともに、必要に応じて、「令和7年度農作物病虫害防除指針」を参考に防除薬剤を散布する。その際、必ず最新の農薬登録内容を確認する。

令和7年度農作物病虫害防除指針

<https://www.nounavi-aomori.jp/farmer/archives/10884>



チャバネアオカメムシ成虫



チャバネアオカメムシ卵塊
(果実上)



チャバネアオカメムシふ化幼虫

(17) マメコバチの巣箱の回収

マメコバチの巣箱をまだ回収していないところでは、すみやかに回収する。直射日光が当たる所や高温になる所を避け、風通しのよい日陰に保管する。地面からできるだけ離して、巣筒の内部が過湿にならないように注意する。

冬季に温度が上がる場所（暖房する部屋や日光の入る閉め切った部屋など）には絶対に入れない。

(18) ビターピット防止対策

例年よりも樹勢が強い場合は、下表によりカルシウム剤を直接果実に付着するように散布する。

ただし、樹勢の弱い樹や高温時、あるいは干ばつ時には薬害発生（葉縁褐変）の恐れがあるので避ける。

カルシウム剤の散布方法

資材名	散布時期 (散布間隔)	資材形状	水1000ℓ当たり 使用量 (倍数)	散布回数 (回)
スイカル	6月上旬～9月中旬 (10日以上)	粉状	330 g (300倍)	3～5
セルバイン	6月上旬～9月上旬 (10日以上)	粉状	250 g (400倍)	3～5
アグリメイト	6月上旬～9月中旬 (15日以上)	液状	200ml (500倍)	5

(19) 縮果病（ホウ素欠乏）対策

欠乏症状が見られたら、直ちにソリボー（葉面散布用ホウ酸塩肥料）を1,000倍（水1000ℓ当たり100g）の濃度で7～10日おきに2回散布する。

(20) 苦土（マグネシウム）欠乏対策

欠乏症状が見られたら、直ちに葉面散布用の硫酸マグネシウムを7～10日おきに散布する。散布は症状の進行が止まるまで、1～4回程度行う。

苦土欠乏は土壌の酸性化が原因なので、あらかじめ土壌診断を行い、自園の状況を把握する。

（分析の依頼先：J A全農あおもり土壌分析センターか最寄りのJ A等）

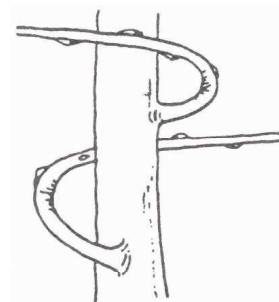
硫酸マグネシウムの使用方法

資材名	マグネシウム含有量	水1000ℓ当たり使用量 (倍数)
グリーントップ	16%	2,000 g (50倍)
グリーントップ70	23%	1,400 g (71倍)

(21) わい性台樹の雪害防止対策

雪の多い地帯では雪害防止のため、雪に埋没する高さまでの枝に交差分枝の処理を積極的に行う。

枝がまだ軟らかい7月に、主幹から発出した側枝（新梢）を発出方向の反対側に向きを変えて湾曲させ、ひもなどで固定する。



交差分枝法

(22) 雪害樹の管理

ア ビターピット対策

雪害の影響で例年よりも樹勢が強い場合は、ビターピットが多くなる懸念があるので、適宜、対策を講じる。

※ (18) ビターピット防止対策：カルシウム剤の散布方法参照

イ 接ぎ木後に伸びた新梢の結束

接ぎ木や高接ぎ後に伸びた新梢は風で折れやすいので、添え木や支柱に結束する。

ウ 雪害を受けた枝の支柱の手直し、側枝の吊り上げ

果実の肥大に伴い、復旧した雪害の傷口が、再度開いてしまう場合があるので、傷口が開かないよう適宜見直しを行う。

3 その他の一般作業

(1) 草刈り (2) 極早生品種の着色手入れ、収穫 (3) 鳥害防止対策

4 今後の作業(8月7日～8月27日)

(1) 見直し摘果 (2) 徒長枝整理、支柱入れ、枝吊り (3) 薬剤散布
(4) 落果防止対策 (5) 高温対策 (6) 腐らん病対策
(7) ビターピット防止対策 (8) 苦土欠乏対策 (9) 草刈り

《 雪害を受けた樹の伐採・抜根等に必要な作業用機械の借上げ経費を支援します 》
県では、雪害を受けた樹の伐採・抜根等に必要なバックホーなど作業用機械の借上げ経費を支援しています。

令和6年12月以降の経費が対象となりますので、詳しくは申込先までお問い合わせください。

申込先：各地域の果樹産地協議会

申込期限：令和7年8月末日まで



青森県農薬危害防止運動展開中(6月～8月)！

《 農薬使用基準の遵守 》

農薬を使用する場合は、必ず最新の農薬登録内容を確認する。

農林水産省「農薬登録情報提供システム」(<https://pesticide.maff.go.jp/>)

農薬の使用にあたっては、事前に周辺住民に対し、農薬の散布日時や使用者の連絡先等を十分な時間的余裕を持って知らせる。また、農薬の飛散により、周辺作物や近隣の住宅等に被害を及ぼすことのないように農薬飛散低減対策に留意して散布する。

《 ツキノワグマ出没警報発令中！！（５月１日～１１月３０日） 》

- ・ １人での作業をできるだけ避け、ラジオやクマよけスプレーを携帯するなど、人身被害の防止に努めましょう。
- ・ 野菜・果実等の収穫残さや弁当の空容器などは、クマを引き寄せる原因となるため、農地に放置せず、適切に処理しましょう。
- ・ 農地周辺の藪を刈払って見通しを良くすることで、クマの隠れ場所を無くし、クマが農地に近づきにくい環境を整えましょう。
- ・ 詳細は県ホームページをご確認ください。

(https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kankyo/shizen/kuma_cyuui.html)

《 熱中症対策を行いましょう！ 》

◎熱中症予防運動を展開中です（６月１日～８月３１日）

熱中症による緊急搬送者が近年増加傾向にあります。こまめな休憩をとり、水分・塩分補給を行い、熱中症を予防しましょう。

◎労働者への熱中症対策が義務化（罰則あり）されました

本年６月に労働安全衛生規則が改正され、労働者を雇用する全ての事業者に対して、熱中症対策が義務付けられました。

熱中症対応フローなど必要事項を記載した「張り紙」を事務所等に掲示しましょう。

「張り紙」のひな型については、青森県農業・就農情報サイト「農なび青森」に掲載しています。



《 農業保険に加入し、農業経営に万全の備えを！！ 》

農業保険には、果樹共済、農業経営収入保険などがあります。自分の経営にあった保険を選択、加入して、自然災害をはじめとしたリスクに備えましょう。

詳しくは、お近くの農業共済組合まで、お問い合わせください。

農作業安全を心がけましょう！

次回の発行は令和７年８月６日（水）の予定です。